

成果指標				
成果指標	活動指標事業の実施回数			
指標設定の考え方	青少年補導員の活動を通して、青少年の指導がうまく適切に図られたか。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標27年度
目 標	1800	1800	1800	0
実 績	1769	1555	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	青少年の非行を未然に防いだり、地域住民の防犯意識の高揚と防犯活動に一役買っているため、事業を継続していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	青少年補導員を中心とした学校、地域との連携による、青少年健全育成に向けた活動は社会への貢献度も高く、今後ともこの活動を推進していく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題